

原 著

歯間ブラシの使用状況，適正サイズ選択力および使用方法の 指導効果からみた歯間ブラシ使用の普及拡大策の探索

石川 昭¹⁾ 小野間律子¹⁾ 増田 美恵¹⁾ 森田十誉子^{2,3)} 山崎 洋治²⁾

概要：歯周病を予防するには歯間部の清掃が重要であり，その清掃用器具の一つである歯間ブラシの使用を普及拡大することが大切である．今回，歯間ブラシ使用の普及拡大策を探索するための調査を実施した．

妊婦歯科教室に参加した104人を調査対象とした．歯間ブラシの認知度は高かったが，使用経験者は半数以下であり，常時使用している者は少なかった．一方，対象者の3/4は歯間ブラシの挿入可能な部位を持っていた．歯間ブラシは人から勧められて使用する場合が多く，使用していない理由は未経験による知識や経験の不足が多かった．

また，視覚認識の見た目だけで適正サイズの歯間ブラシを選択することは難しく，実際に使用体験することにより適正サイズを選択する率は高まるが十分ではなかった．歯間ブラシを指導すると，挿入可能な部位が多い者ほど簡単に使えると回答した者が多く，その後の使用意志が高かった．1回の指導により，2カ月後の使用者が有意に増加し，挿入可能な部位が多い者ほど2カ月後も使用している者が多かった．指導から2カ月後までに歯間ブラシを新たに購入した者は回答者の18%であった．

歯周病予防のために歯間ブラシの使用を普及拡大させるには，行政の歯科保健事業や歯科医院などにおけるあらゆる機会に，歯間ブラシの使用についての啓発を積極的に行う必要があることが示唆された．また，専門家が指導するとさらに効果的であると考えられた．

索引用語：歯間ブラシ，指導効果，歯周病予防